

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.124) 2023/5/8

目次

1. 第49回大会のおさそい
2. 理事会報告
3. 定例研究会（関東）報告
4. 定例研究会（関西）報告
5. 看護・ケア研究部会報告
6. 渉外・国際交流活動
7. 編集後記

---

## 1. 第49回大会のおさそい

2023年5月27日（土）、28日（日）の両日、東京都立大学荒川キャンパスにて、第49回日本保健医療社会学会大会を開催いたします。

この度の大会は、3年ぶりの完全対面で実施します。多くの会員の皆様が、コロナパンデミックによって研究の実施に際して様々な困難を経験されたと思いますが、調査等が再開されつつある今、研究活動を応援する機会として、本大会を企画しました。会員の皆様に大会の方針を共有いただけ、発表演題は47件、ポスター3件、RTD7件の申請があり、多くの研究発表が行われる予定です。対面での再会となります。熱い議論と研究交流が行われますことを楽しみにしております。

大会参加にあたっては、第49回大会ホームページおよび、4月10日前後に到着しております抄録を前もってお読みくださいますとスムーズと思います。事前参加登録の〆切は5月22日（月）となっております。当日参加も可能ですが、可能な範囲で事前参加登録をいただけますと幸いです。

何よりも体調を整えいただき、両日に荒川キャンパスにて再会できますことを楽しみにしております。

（第49回大会長：西村ユミ氏 [東京都立大学]）

## 2. 理事会報告

2023年3月27日（月）に2022年度第4回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

日時：2023年3月27日（月） 13:00～16:00

会場：ZOOM会議

出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、伊藤理事、本郷理事、前田理事、井口理事、田代理事、石川理事、心光理事、西村大会長（第49回）、吉田大会長（第50回）、朝倉監事、

事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：蘭監事

1. 園田賞（学会奨励賞）候補について（天田理事）

天田理事より配布資料の通り、選考委員会で審査を行った結果、受賞者候補が推薦され、承認された。

2. 研究活動委員会報告（天田理事）

天田理事より配布資料の通り、委員会活動と第49回大会概要について報告があった。第49回大会では一般口演報告が前回と比べて多くの申込があったことが伝えられた。3月に開催した定例研究会についてリマインドメールを複数回配信したことにより、参加者数が多かったとの報告があった。

3. 第49回大会の進捗状況について（西村第49回大会長）

西村第49回大会長より現在までの進捗状況と配布資料の通り、予算案について説明があった。対面開催であることから出版社へ書籍販売の案内をする準備を進めているとの報告があった。これまでは1日5,000円の出展料を徴収していたが、出版社との協力関係が薄くなっていることや、現在の出版業界の厳しい状況を鑑みて今回の大会では出展料を徴収しないことが提案された。過去大会においては大会校の判断で徴収可否を決定しており、出展料を徴収していないこともあったため、引き続き大会校の裁量で進めていくこととなった。近日中にHPを公開する予定であることが伝えられ、公開後に会員向けにメール配信することとした。

4. 第50回大会の進捗状況について（吉田第50回大会長）

吉田第50回大会長より配布資料の通り、進捗状況について報告があった。会場借用費用について参加人数によって金額が変動するとの説明があり、現時点では参加者180名を想定していることが伝えられた。会場費は理事会が妥当な金額と判断した場合、学会本体が負担することが確認された。業務委託については必ずしも相見積もりをとる必要がないことが確認された。メインテーマは大会校の意向を尊重し、配布資料の通りとすることとした。

5. 2023年度大会時評議員会・総会の議題と資料の作成について（小澤会長）

小澤会長より総会議案書の内容を大会前に開催する次回理事会で確認することが伝えられた。

6. 次期役員選挙結果について（小澤会長）

小澤会長より配布資料の通り、理事と監事の役員選挙結果報告があった。

7. 編集委員会報告（井口理事）

井口理事より配布資料の通り、編集委員会の予定、34巻1号の進捗状況、今期委員会の採択状況について報告があった。

8. 看護・ケア研究部会報告（伊藤理事）

伊藤理事より3月11日にオンラインにて研究会を開催したとの報告があった。

次回大会にて総会を行う予定であることが伝えられた。

9. 渉外・国際交流活動の報告（石川理事）

石川理事より配布資料の通り、東アジア社会学会の演題募集について報告があり、会員へメール配信することとした。また、理事より周囲へ演題募集を勧めることとなった。

10. ニューズレター124号の配信について (心光理事)

心光理事より配布資料の通り、目次案と発行スケジュールについて説明があった。原稿締切を4月28日にし、5月の大会前に発行することとした。

11. 2022年度決算案及び来年度予算案について (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より配布資料の通り決算案と次年度予算案について説明があった。決算案について論集のページ数増加に伴い、印刷費が予算案を超過したとの報告があった。予算案について書評本購入費用を編集委員会経費として新たに費目を追加したこと、医学教育ワーキンググループの費用を計上したことが伝えられた。

12. 入退会者の承認 (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より資料の通り、新入会20名の承認依頼があり、承認された。また、退会4名の報告があった。

以上

(戸ヶ里理事：総務担当)

### 3. 定例研究会 (関東) 報告

2023年3月11日(土) 14:00~17:00、立教大学池袋キャンパス 15号館 M301教室 (および補足ツールとして Zoom による配信) にて、エスノメソドロジー・会話分析研究会春の例会との共催で第2回関東定例研究会を開催した。「保健医療の EMCA 研究」の書評セッションとして企画した。

対象書は、樫田美雄氏 (神戸市看護大学) の著書『ビデオ・エスノグラフィーの可能性——医療・福祉・教育に関する新しい研究方法の提案』 (晃洋書房、2021年) と、河村裕樹氏 (一橋大学) の著書『心の臨床実践——精神医療の社会学』 (ナカニシヤ出版、2022年) の2冊である。前者は、20年以上に渡って本学会で EMCA 研究の紹介を続けてきた樫田氏が、積み重ねてきた研究実績をもとに「研究方法の提案」として世に問うたものであり、後者は、第14回園田賞を受賞した若手研究者である河村氏が、一橋大学社会学研究科に提出した博士論文を刊行したものである。両氏には互いの著作への書評コメントを担当していただき、互いの書評へのリプライを皮切りに、フロアを巻き込んだ活発な議論がなされた。

河村氏からは、ビデオ・エスノグラフィーがリフレクションの手続きを明確に示したことを評価した上で、先行研究との関係、録画データの位置づけ、従来型の医療関係者の評価の妥当性、エスノメソドロジーとの関係などについて質問がなされた。樫田氏からは、精神医療の研究としての希少性と社会学としての応用可能性が両立されているというコメントのもと、事例の再分析の提案がなされた。両氏のリプライとそれに対する再コメントは、精神医療をはじめとした調査が簡単ではない保健医療の領域でどのように調査研究を行っていくのかという論点をはじめ、多岐にわたる論点を含んだ議論となった。フロアからも、ビデオ・エスノグラフィーが、エスノメソドロジーの方針をどの程度継承するものであるのか、質問がなされたのをはじめ、構築主義や医療化論との関係、エスノグラフィーとの関係などまで含め、活発な議論がなされた。

本定例研究会は、EMCA 研との共催という初の試みとして開催され、対面・オンラインを含め

90人近い参加者があり、極めて盛況なものであった。本書評セッションの盛会は、書評対象書の持つ多数の参加者の関心への訴求力を示すとともに、二つの領域が交差する地点への関心の高さを示していたように思われる。その意味で、保健医療社会学の研究者でEMCAをはじめ質的研究に関心がある参加者と、EMCA研究者で保健医療にかかわる領域にも関心がある参加者の間で議論を共有する機会となったといえるだろう。

(前田理事：研究活動担当)

#### 4. 定例研究会（関西）報告

2023年3月5日（日）13:00～16:00、2022年度第2回関西定例研究会をキャンパスプラザ京都にてハイブリッド形式で開催した。今回の演者は『現代日本の「看取り文化」を構想する』（2022年、東京大学出版会）の編著者である浮ヶ谷幸代さんから文化人類学より、話題提供していただいた。

日本では、ほとんどの人にとっての最期の場所は病院で、その割合はオランダやスウェーデンなどとの比較によっても圧倒的に多いという特徴がある。そんな中、浮ヶ谷氏は、個人化や私秘化が進む社会における人の最期の迎え方を「個人の問題」から「集合体や地域コミュニティの問題」として捉えるという学術的課題として、また家族観の変容、地域コミュニティにおける紐帯の衰退、独居高齢者や無縁高齢者の増加、地域包括ケアシステムを担う「専門職チームへの過度の依存」という現実的課題として問題関心から、同氏の専門である文化人類学的な見地から「看取り文化」の構想を提唱している。

看取り文化とは「地理的にも人口的にも『顔の見える関係』が成り立つ、ある一定のローカルな地域において、そこで生活する人たちが志向する生と死のあり方とそれをめぐる実践のあり方」として、既存の価値観や関係性に対して、「そこで生活する人たちが新たに志向する価値観や関係性とそれらの擦り合わせから新たに創り出されるという非同一性や動態性を内包する文化人類学的な文脈での「文化」の特徴を持つものと定義された。

「看取り文化」の構想には、ケレハー（2022）による、老いや病、死、喪失を専門家ではなく市民が受けとめ、支え合うコミュニティに取り戻す理念・運動として提唱された共感都市（Compassionate Communities）の考え方や、モル（2020）による「ケアのロジック」を踏まえた、ケア論の文脈、死をめぐる選択や看取りの場所性、看取りと地域コミュニティの4つの観点が述べられた。その上で「看取り文化」におけるケアに重要なのは「量」であり、優れた専門家とそうではない身近な人々によってもたらされるケアを対比し、事例を紹介しつつ後者からもたらされる「ケアの量」は質を凌駕することが示された。

さらに今後の研究では、看取りや、葬送や墓、医療や価値観、経済状況といった領域に分断して捉えられがちな「人の生と死」を、一連のこととして接続させる試みを通じて、死を社会（私たち）に取り戻す...構想から実装研究への...展望が述べられた。

フロアからは現代日本では看取りの主たる担い手である専門家は「葬送」からは排除／分断されていることや、海外の事例も踏まえつつ果たして人は自宅で死ぬべきなのかという価値規範、ケアに携わる人の責任などについて意見交換がなされた。さらには看取り文化は、「くらしの場」

における文化を取り扱っているため主たる死亡場所である病院が研究対象にならないことや子どもの看取りについても意見が交わされた。フロア参加が7名(登壇者除く)、リモート参加が(最大)51名あり、ディスカッションは、会場にてラウンドテーブル形式で行い、sympathyやempathyにcompassionが沸き立ち、大いに盛り上がった。なお事前申込者の35%が看護学系、29%が非会員であった。

(伊藤理事・本郷理事：研究活動担当)

## 5. 看護・ケア研究部会報告

### 1) 2022年度第3回研究例会報告

日時：2023年3月11日(土) 14:00~17:00(オンライン開催)

発表者：田代順(ナラティブアプローチ研究室)

タイトル：SVを行っている緩和ケア病棟のソーシャルワーカーの実践—緩和ケア病棟における「パラレルチャート」的实践による病棟文化・スタッフ文化の「変容」

概要：

緩和ケア病棟に「強力」に通底する「役割意識」。それは患者-医療スタッフ双方を縛り合うものとして「機能」してきた(ex.パーマをかけたいという患者に対し、「死にゆく」患者がパーマをかけるなんて等)。当初、患者担当のソーシャルワーカーが連絡用においたノートが、カフェの「雑記帳」のようにも機能して、そこに医師、看護などの医療スタッフ(だけでなく)、病棟外の「関係者」も、患者や自分の「役割」についての主観的思いや感情を記述するようになった。その個人の思いに他者がまた加筆して、いわば多筆化という「記述的多声化」が生じた。それによって、「外からの(記述的)声」も含め、役割意識からくる専門的「単声」(のみ)で、互いを規定しあい、縛り合う様相が大きく緩和された。以上が展開した「緩和ケア病棟」の、病棟文化の変容を伴う諸相を事例として報告した。

### 2) 報告者募集

看護・ケア研究部会の研究例会はアットホームな人数で学際的な議論ができるのが魅力です。皆様からの報告エントリーをお待ちしております。

\* 毎回2名の報告者を募集しております。

\* 対面開催時、100km以上遠方からお越しの報告者には、ご本人が希望する際に限って、交通費の半額(領収書を当日お持ちください)を補助します(ただし、上限2万円)。事前に資料を印刷してご持参いただきますので、印刷の領収書(レシート)をもって実費支給補助制度もあります。

2023年度の研究例会でのご報告をご希望される方は、下記のフォームからお申し込みをお願いいたします。

<https://forms.gle/WMyCkWQMLqfXgB2U6>

(坂井志織氏：看護・ケア研究部会庶務)

## 6. 渉外・国際交流活動

国際交流委員会では、関連する分野の国際学会や海外研究者招聘の予定、学会員の参加が可能な講演・セミナー等の情報提供を行っております。皆様からも、ぜひ情報をお寄せください。現在、以下について学会ホームページでもご案内しています。

- 第20回世界社会学会 (ISA, World Congress of Sociology)
- 第12回 IAGG アジア/オセアニア国際老年学会議 (IAGG-AOR2023)
- 第3回東アジア社会学会大会 (EASA: East Asian Sociological Association)
- アメリカ社会学会 2023年大会 (第118回年次総会) (American Sociological Association)
- 欧州医学教育学会 (AMEE, The Association for Medical Education in Europe)
- ヘルスケアコミュニケーション国際会議 (ICCH, International Conference on Communication in Healthcare)

(石川理事：渉外・国際担当)

## 7. 編集後記

ニューズレターNo.124では、間近に迫りました第49回大会のお誘いに加え、3月に開催された定例研究会などについてお知らせいたしました。第49回大会は、久しぶりの完全対面での大会開催となります。みなさまふるってご参加ください。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(心光理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当 (心光世津子)
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター	
jshms-office@as.bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375